

2018年度 山形フロアホッケー連盟 事業報告

(1) 会議関係

月 日	内 容
2018年4月19日	理事会 11名出席
2018年5月14日	山形連盟第11回通常総会 13名出席
2018年6月2日	県大会開催についてのスタッフ会議 4名出席
2018年9月15日	10周年記念事業のスタッフ会議 5名出席
2018年9月27日	10周年記念事業のスタッフ会議 2名出席
2018年10月4日	10周年記念事業のスタッフ会議 5名出席
2018年10月23日	10周年記念事業のスタッフ会議 6名出席
2018年11月16日	10周年記念事業反省会議 8名出席

(2) 大会・競技会関係

月 日	内 容
2018年 6月10日(日)	<p>2018年度春季フロアホッケー山形県大会 (会場: 上山市立南小学校体育館)</p> <p><参加8チーム> 参加総数 110名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガネーシャンズ(12名) ・山形ど〜もっす。(9名) ・SFIDA 郡山(11名) ・ひょうきんスマイラーズ(13名) ・WARRIORS(ウォリアーズ) 9名 ・新潟イエローKAACフロアホッケークラブ(11名) ・新潟レッド KAACフロアホッケークラブ(14名) ・まじめなスマイラーズ(13名) <p>・役員 レフリー・来賓 12名 ボランティア 6名</p> <p><結果></p> <p>優勝 WARRIORS 準優勝 新潟レッド・KAACフロアホッケークラブ 3位 山形ど〜もっす。 SFIDA 郡山 全チームトーナメント戦</p>
2018年 11月4日(日)	<p>2018年度秋季フロアホッケー山形県大会 (会場: 上山市立南小学校体育館)</p> <p><参加8チーム> 参加者総数 132名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガネーシャンズ(11名) ・弘栄設備工業(株)(19名) ・エフピコ山形(19名) ・SFIDA 郡山(11名) ・ひょうきんスマイラーズ(10名) ・まじめなスマイラーズ(10名) ・米沢・置賜チーム(18名) ・新潟レッド・KAACフロアホッケークラブ(16名) <p>・役員 レフリー・来賓 12名 ボランティア 6名</p> <p><結果></p> <p>優勝 新潟レッド・KAACフロアホッケークラブ 準優勝 ガネーシャンズ 3位 弘栄設備工業(株) ・ SFIDA 郡山 全チームトーナメント戦</p>

(3)指導者・審判 派遣実績

月日	内容	担当
2018年 9月30日(日)	岩手・一関チーム 計18名・付き添い4名 障がいのある方メインでの体験会で指導 新しいチームで山形の秋季大会が初参加予定 場所: :岩手県一関市山目市民センター 主催:丹野健	渋谷 英司 武田 岳彦
2018年 12月2日(日)	第9回庄内地区障害者フロアホッケー大会 116名参加(うち選手98名) 指導者派遣・審判員派遣 場所:鶴岡市小真木原体育館 主催:SON 山形 鶴岡支部共同作業所連絡会 後援:鶴岡南ロータリークラブ・山形フロアホッケー連盟	武田 岳彦 佐藤 宏美
2019年 2月17日(日)	岩手・一関体験会 指導員派遣 障がいのある方メインでの体験会で指導 新しいチームの結成 参加者;20名 場所:岩手県一関市山目市民センター 主催:丹野健	武田 岳彦 三沢 拓也

(4)全国会議

月日	内容	担当
2018年 5月30日(水)	日本連盟主催 ZOOM 会議 内容 競技者登録について	佐藤 宏美

(5)用具貸出実績

月日	内容	担当
2018年 12月2日(日)	第9回庄内地区大会へコート2面分 (スペシャルオリンピックス日本・山形経由)	武田 岳彦



10周年記念事業報告 フォーラム・祝賀会

場所：ヒルズサンピア山形 〒990-2333 山形県山形市蔵王飯田 637

日時：2018年11月3日（土）

●記念講演 15:00～15:50 参加者 46名

講師 大草 玄 きさらぎジュニア代表

講師の大草先生から、普段の活動の様子をまとめた映像などを交えながら30年にわたり続いてきたきさらぎジュニアの活動に基づく経験談をお話し頂いた。

山形に来る前に、背中を負傷したということで不自由な体にも関わらず講師をお受けいただいたことに感謝したい。けがをした原因も、障がいをもつ子どもが、とびかかってきたのを受け止めたことが原因ということで、普段から様々な困難に直面しながらの活動であることを再認識した。

保護者の協力が支えになっているということ、手作りのメモ帳、コースターなどを販売して財源を得ていることなどは大変参考になった。また、障がいのある子たちも、自分のことは自分でやるということ徹底して教えることでかなり自立した行動がとれるようになるということがわかった。

FHという競技が、他のスポーツに比べると、障がいのある人たちが取り組みやすい競技であることを再認識した。今後の山形におけるフロアホッケーの普及にむけて多くの気づきを得ることができた講演であった。

●パネルディスカッション 16:00～17:00 参加 60名

インクルージョン社会を目指して これからの10年～

コーディネーター：花輪 敏男 氏(FR教育臨床研究所所長)

パネラー (株)大風印刷 代表取締役 大風亨・ぷれジョブ 西幸代・教育委員 無着道子
障がい者雇用企業、ボランティア経験者、家族等、様々な立場のパネラーをお招きしてこれからインクルージョン社会をつくるためのパネルディスカッションを行った。

細川佳代子理事長は体調不良のため登壇せず、フロアからの参加となった。

大風さんからは、雇用企業の立場から、障がいのある社員がいると社員全員が優しくなってくる、といった金銭面や仕事面ではない部分でのメリットがあることを発表してもらった。

無着さんからは、障がいのある子にとって、フロアホッケーチームや活動の場が、居心地の良い居場所になっていることに気が付き親として安心したこと、チームのみんなとお弁当を食べることが楽しい、といった、日常の中で忘れてしまいがちな一コマが大切な時間になっていることに気が付いた問お話を頂いた。西さんからは、ぷれジョブに関しての説明があった。週に一時間のぷれジョブが、障がいのある人のみならず、受け入れる企業、社会にとっても得るものが多い活動であることを学ぶことができた。体育館から外の社会へを目指す今後の活動にむけて大変参考になるパネルディスカッションであった。

●祝賀会 18:00～20:00 参加者 47名

会費 3,500円（ヒルズサンピア宿泊者は宿泊料に含まれます。）

アルコールなしの祝賀会であったが、大会参加チームのPRタイム、四方山会による躍動感のある花笠踊りの披露、そして会場を輪になって踊った花笠踊りと、大いに盛り上がる事ができた祝賀会であった。

アスリートたちの楽しそうな顔を拝見し、この祝賀会の開催が成功であったことを確信できた。

県外チームとの情報交換もできて、今後の活動で連携を図る上でも有意義な時間となった。